

令和元年度
学校関係者評価報告書

令和2年3月

学校法人大志学園
武蔵野学芸専門学校

武蔵野学芸専門学校 学校関係者評価報告書について

武蔵野学芸専門学校 学校関係者評価は、武蔵野学芸美術教育研究所に所属する、美術、および美術教育に精通した方々を委員として選任し、

現状における課題について助言を得る貴重な機会としても位置づけ、必要な改善、学校運営や教育実践力等の向上に役立てることとする。根底に本校が従来から伝統的に取り組んできたものについてその価値を見極めて頂き、今後も継続できるよう客観的に評価して頂いた。

1. 実施日時 令和元年 9 月 21 日 (土) 10:00-15:00

2. 実施場所 武蔵野学芸専門学校 本校舎 2F 大教室

3. 実施方法

実施組織：武蔵野学芸美術教育研究所

○評価委員

立島恵 佐藤美術館 学芸部長

有賀三夏 東北芸術工科大学 講師

村上尚徳 学校法人創志学園 環太平洋大学 副学長/アドミッションセンター長

下郡啓夫 函館工業高等専門学校 一般系 教授

土田義昌 学校法人創志学園 広尾学園中学校・高等学校 中学校本科コース統括長

前田千尋 内閣府認定 公益財団法人こども教育支援財団

○学校関係

増田哲也 学校法人大志学園 理事長

三上慎之介 武蔵野学芸専門学校 校長

村松佑樹 武蔵野学芸専門学校 事務長

樋口理 武蔵野学芸専門学校 教員

古屋詩織 武蔵野学芸専門学校 職員

4. 学校自己評価報告書について

(a) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(b) 評価項目：

次の 10 項目について実施

項目 1 教育理念・目的・人材像

項目 2 学校運営

項目 3 教育活動

項目 4 学修成果

項目 5 学生支援

項目 6 教育環境

項目 7 学生の募集と受け入れ

項目 8 財務

項目 9 法令等の遵守

項目 10 社会貢献・地域貢献

(c) 評価項目に対する評価 4段階評価で点数評価した。

[4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切]

5. 学校関係者評価報告書の作成について

上記の学校自己評価報告書を基に各項目について評価を頂き、討議を深めた。コメントは以下の様にまとめた。

(1) 教育理念・目標

本校が所属する創志学園グループの理念【夢、挑戦、達成】を基に、3つのアドミッションポリシーを策定している。

- ① 世界を知り、思考し創造する力を養う
- ② 0から1を生み出せるプロフェッショナルを育てる
- ③ 表現する喜びと実行できる強さを身に付くける

これらのポリシーに基づいた美術教育を実践し、世界を舞台に活躍できる人材を育成している。教職員及び学生・生徒も、理念・目標について理解できている。

評価項目	評価 (4~1)
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
・ 学校における職業教育の特色は定められているか	3
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

【評価委員コメント】

将来性が見えるような授業や講座（キャリア教育）の開設。クリエイターとしての就職と、時代と共に変化していく作家の生き方を教える。職業の種類や間口の考え方を広げる教育はどうか。

(2) 学校運営

本校は学則に基づき運営されている。

組織・管理運営は、校長及び課程長が統括し教員会議を実施、事務部門は事務長が中心となり、職員との情報共有が適切に行われている。定例の教員会議は、毎回全教員が出席して、年間カリキュラムについての協議、改善に努めている。

学校運営の充実を図るため、「教職員相互の理解」「目標・方針の共有や一致」を目指して、教職協働を進めていく。

評価項目	評価 (4~1)
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2

【評価委員コメント】

特になし

(3) 教育活動

本校では MI 理論(多重知能理論)を基に自分・他者を理解することで自分の強みを探れるようカリキュラムを設計した。

本校での学びを通して自分の強みを理解し、エントリーポイントを作り、他者との関係を育みながら表現教育を行なっていくことを目指している。

作品制作に「他者の視点」が組み込まれ、より訴求力のある表現ができるようになる

評価項目	評価(4～1)
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

【評価委員コメント】

- ・ 自己評価の取り方としてはなるべく影響を受けない環境で主観でとった方が良い
- ・ 同じ授業を受けている生徒でも、個性によってどこに反応しているかが違う、可視化することでそれぞれにあった教育が実践できるのではないか
- ・ それぞれのカリキュラムの効果を明確化するため多重知能シートは授業前、授業後の両方取るのはどうか
- ・ 自己肯定感が低い、自分に自信がない子に対して何が出来るか検討したほうが良い
- ・ 描きたい気持ちを少しでも長く持ち続けてあげられるような、モチベーションを維持させられるような支援が必要

(4) 学修成果

評価項目	評価 (4～)
・ 就職率の向上が図られているか	3
・ 資格取得率の向上が図られているか	2
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握している	4
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

【評価委員コメント】

・アーティスト・クリエイターのモチベーションを維持させられるような支援が必要である。

(5) 学生支援

学生支援の一環として他大学との連携授業、企業デザイナーや漫画家、アーティストの外部講師による特別授業も実施している。

卒業生や企業と連携して、学生に就職への意識を高められる環境を提供できるように、教職協働の取り組みとして組織的に進めていく。

評価項目	評価(4～1)
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	3
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・ 卒業生への支援体制はあるか	3
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

【評価委員コメント】

・先生と生徒が一方的ではなく、作品を描いた意図などを探る対話型の講評ができれば良い。

・一つの授業や科目を通じて歴史的背景など新しい学習につながっていく。その可能性が美術には多いに含まれている。

(6) 教育環境

2020年度より制作に特化した新2号館を運用し、教育環境の拡充に努める。
ボストンレスリー大学と連携した教育プログラムを実施し、海外研修も計画中である。

評価項目	評価 (4～)
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2
・ 防災に対する体制は整備されているか	3

【評価委員コメント】

- ・ 具体的にどのような学習ができるのか明示するべきである。
- ・ デジタルツールを活かした教育も今後実施すべきである。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価 (4～)
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4

【評価委員コメント】

特になし

(8) 財務

2020年度より入学者定員を60名に拡充し、財務基盤の安定を

評価項目	評価 (4～)
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

【評価委員コメント】

特になし

(9) 法令等の遵守

法令等の遵守関連省庁への届出をはじめ、適正な運営に努めている。学校関係者評価の実施及びその結果の公表については、令和元年度中に体制を整え実施し、令和2年度中に公表していく。

評価項目	評価 (4～)
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされ	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	4
※・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3
※・ 自己評価結果を公開しているか。	4

【評価委員コメント】

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価 (4～)
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。	3

【評価委員コメント】

ワークショップを通じたコミュニケーションも良いが、人と関わるより制作に没頭したい学生を巻き込むのは違う。明確な目的を持たずしてワークショップをやっても意味が無い。

社会との関係性、子供たちとの教育などを考えて企画側はプログラムを立てるべきである。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	評価（4～
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	4

【評価委員コメント】

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 学校評価を毎年定期的かつ真摯に実施することにより、社会と学校、学生の状況を速やかに把握し、具体的に各部門を数値化することによって、分析しやすい状態をつくっていく。またこのデータにより、教職員の意識を高め、問題点をよく検討していくことにより、より良い本校と社会、本校の教職員、本校と学生との関係を築いていく。現在の自己評価では概ね一定の評価がある一方、組織の意思決定や人材配置のバランス、教員研修や資格取得、学生の課外活動に対する支援など、まだまだ課題を残すところもあり、今後善処できるよう努めたい。

学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告内容は、学校関係者評価委員
として、妥当な評価であることを確認
し、認めます。

令和 2 年 3 月 3 1 日
武蔵野学芸専門学校

武蔵野学芸美術教育研究所